

令和 7 年度 STI 予防委員会研究報告

横須賀市医師会 STI 予防委員会

<緒 言>

横須賀市医師会と横須賀市保健所は、横須賀市内で発生する STI（Sexually Transmitted Infections=性感染症）の撲滅及び予防のために密接な協力体制を長年に亘り維持して来ている。毎年、横須賀市における STI の発生状況に対する実態調査を行っており、平成 24 年度からは調査結果を『STI 予防委員会研究報告』として横須賀市保健所のホームページ上で公開しており、令和 6 年度からは横須賀市医師会ホームページにも掲載している。ここに令和 7 年度の調査結果を集計し、検討を加えたので報告する。

<対象及び方法>

令和 7 年 4 月から令和 8 年 3 月までの期間に横須賀市内の協力医療機関（別記）を受診した STI の症例を指定の『STI 患者報告票』に必要事項を記載した上で FAX にて横須賀市医師会に送ってもらい届け出施設と回収率を集計した後に横須賀市保健所健康危機・感染症対策課の協力で集計した。集計結果については STI 予防委員会で議論された。

膣カンジダ症については症例が多いこと、必ずしも STI ではないこともあり、届け出は婦人科医の自主性にまかせ、届け出されたものについてのみ集計した。

非淋菌性尿道炎の「その他」については、クラミジア及び淋菌の検出はなかったが、明らかに STI が考えられる尿道炎につき届け出され集計した。子宮頸管炎の「その他」も同様である。

<結果および考察>

1. 届け出施設と回収率

38 施設（7 病院、31 診療所）に集計を依頼した。今回、届け出に協力いただいた施設は 38 施設で回収率は 100%であった。その内訳は病院が 7/7（100%）、泌尿器科診療所 4/4（100%）、婦人科診療所 11/11（100%）、皮膚科診療所 11/11（100%）、混合科診療所 5/5（100%）であった。（p16 令和 7 年度協力医療機関参照）

2. STI の届け出総数

令和 7 年度 STI 届け出数を病名別、性別、年齢別に表 1（p6 参照）に示した。全届け出数は 980 件で、昨年度 1018 件と比較して 38 件減少した。過去 36 年間の届け出総数の年次推移を図 1（p9 参照）に示すが、昭和 61 年からのいわゆるエイズパニックにより、平成 5 年までの落ち込みがあったが、平成 6 年から横須賀市で STIを扱う婦人科、泌尿器科、皮膚科、性病科を標榜する全施設に調査を依頼するようになって急激に届け出数が上昇しており、平成 11 年には 800 例を超えている。その後毎年 600～800 件で推移していたが、平成 29 年度には 900 件を超え、平成 30 年度は初めて 1000 件を超えた。その後毎年 1000 件前後で推移している。

3. 疾患別の統計（p6 表 1 参照）

1) 梅毒

初期梅毒は 30 例（男性 13 例、女性 17 例）の報告があり、令和 6 年度の 21 例

(男性 13 例、女性 8 例) より女性で 9 例増加していた。

図 2 (p10 参照) に、過去 47 年間の梅毒と淋病の報告数の年次推移を示した。梅毒に関しては昭和 56 年度までは年間 100 例以上の報告があったが、その後減少の一途をたどっている。昭和 61 年のエイズパニック以降は年間 10 例以下が続いていたが、近年増加傾向がみられる。

2) 淋菌感染症 (淋病)

淋菌性尿道炎は男性 66 例で昨年度 (81 例) より減少していた。

10 代の男性は 6 例で昨年度 (10 例) より減少していた。年代別では 20 代が 23 例と最も多かった。

淋菌性子宮頸管炎は 34 例であり、昨年度 (31 例) より増加していた。

淋菌性咽頭炎は男性 1 例、女性で 1 例の報告があった。

図 2 (p10 参照) に示されているように淋菌感染症(淋病)は昭和 50 年頃から梅毒と入れかわる様に増加して来ている。昭和 60 年頃に一時エイズパニックのためと思われる減少を示したが、その後激増して、平成 11 年度からは横ばい状況であった。平成 19 年度より減少傾向になり、平成 21 年度は 58 例と著しい減少を示したが、平成 25 年度は突然 142 例と増加しており平成 27 年度には 88 例と減少している。その後各年度で増減を繰り返している。

図 3 に (p11 参照) 淋菌性尿道炎と非淋菌性尿道炎の推移を示す。また図 4 (p12 参照) に淋菌性尿道炎と淋菌性子宮頸管炎の年次推移を示す。この淋菌感染症の年度毎の発生数は男女ともに同様の推移が認められている。

3) クラミジア感染症

クラミジア性尿道炎は 154 例 (男性 151 例、女性 3 例) であり、昨年度 (163 例) より減少していた。年齢では 20 代で 69 例と最も多かった。

クラミジア性子宮頸管炎は 202 例で昨年度 (285 例) より減少していた。

年齢別では、例年通り 20 代で 125 例と最も多かった。また、10 代では 30 例報告されており、昨年度 (31 例) とほぼ同様であった。

図 5 (p13 参照) に、クラミジア性尿道炎とクラミジア性子宮頸管炎の年次推移を示した。男性のクラミジア性尿道炎は平成 11 年度 89 例であったが、平成 12 年度 137 例と急増しており、いったん減少傾向にあったが平成 30 年度に激増している。女性のクラミジア性子宮頸管炎は男性のクラミジア性尿道炎とほとんど同様の推移を示していたが、平成 29 年度の急増以降は増加傾向にあったところ、令和 7 年度は減少に転じている。

4) 性器ヘルペスと尖圭コンジローマ

初発の性器ヘルペスは 133 例 (男性 29 例、女性 104 例) で昨年度 104 例より増加していた。再発は 83 例で昨年度 73 例より増加していた。

尖圭コンジローマは 53 例（男性 30 例、女性 23 例）で昨年度（66 例）より減少していた。

図 6（p14 参照）に、性器ヘルペス及び尖圭コンジローマの年次推移を示す。性器ヘルペスに関してはこの 10 年間で増加傾向を示している。特に平成 28 年度から急増しており、令和になり減少していたが、直近 2 年間はまた増加している。一方、尖圭コンジローマに関しては令和になって微増していたが、令和 5 年度は減少した。性器ヘルペスについては再発ヘルペスの増加傾向にあることを考慮し、平成 22 年度からは初発と再発を区別して統計をとっている。

図 7（p15 参照）に性器ヘルペスについて男女別、初再発別の年次推移を示した。平成 30 年度では特に女性において初発例の増加傾向が認められた。その後、令和に入ってから横ばいで推移していたが、令和 5 年度に一時減少し、令和 6 年度には再び増加傾向を示した。

4. 年令別及び性別発生頻度（p6 表 1 参照）

全症例 980 例について、年齢別の頻度を見ると、10 歳代 94 例（昨年度 87 例）、20 歳代 416 例（昨年度 479 例）、30 歳代 200 例（昨年度 214 例）、40 歳代 150 例（昨年度 129 例）、50 歳代 93 例（昨年度 71 例）、60 歳以上は 3 例（昨年度 3 例）であり、10 代、40 代、50 代で増加していた。

男女別の発生頻度では、男性 351 例（昨年度 365 例）、女性が 629 例（昨年度 653 例）で、男女ともに減少した。

5. 感染源（p7 表 2 参照）

男性の感染源については、令和 6 年度からは友人(一人)と友人(複数)に区別して集計している。友人(一人)は 318 例であり、友人(複数)は 52 例であった。例年通り不明が 351 例ともっとも多かった。風俗は 114 例（昨年度 154 例）、配偶者は 99 例（昨年度 109 例）と減少した。配偶者の内訳は男性が 6 例、女性が 93 例と夫から妻への感染が多かった。感染源の結果に関しては、その他(いわゆるゆきずり)から友人(複数)として集計されている可能性が示唆された。

6. 感染地域（p7 表 3 参照）

平成 21 年度から風俗からの感染に限って集計しているのでそれ以前の統計とは比較できない。令和 7 年度も横浜市が最も多く 49 例（昨年度は 66 例）あり、次いで不明が 26 例（昨年度 33 例）で県外が 20 例（昨年 20 例）であった。国外での感染の昨年度は 3 例であったが、今年度は 6 例であった。地元横須賀の昨年度は 4 例であったが今年度はなかった。

＜まとめ＞

- * 令和 7 年 4 月から令和 8 年 3 月までの期間で横須賀市内の協力医療機関を受診した STI 症例をアンケート調査をもとに集計した。38 施設中 38 施設から登録があり、回収率は 100%であった。
- * 届け出総数は 980 件で昨年度より 38 件減少しており、男女ともに減少していた。
- * 梅毒は初期梅毒 30 例で、昨年度(21 例)より増加していた。
- * 淋菌感染症は男性 67 例（昨年度 82 例）、女性 35 例（昨年度 35 例）と男性は減少、女性と同様であった。
- * クラミジア感染症は男性は 151 例（昨年度 163 例）、女性 212 例（昨年度 288 例）と男女ともに減少していた。
- * 性器ヘルペスは平成 28 年度より増加しており、令和になって減少していたが、直近 2 年間は増加している。
- * 尖圭コンジローマは男性 30 例（昨年度 36 例）、女性 23 例（昨年度 30 例）と昨年度より減少していた。
- * 感染源では不明を除き友人(一人)からが最も多く（318 例）、次いで風俗（114 例）であったが風俗での感染は減少している。
- * 風俗での感染場所は横浜が最も多かった。

文 献

1. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成 4 年度性病予防委員会研究報告、1992
2. 公平昭男、古畑哲彦、原上、小川英、大沢章通、松岡俊介、鈴木忍、花田剛：
横須賀市における性病および STD の動向、神奈川医学会雑誌、20、47-51、1993
3. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成 5 年度性病予防委員会研究報告、1993
4. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成 6 年度性病予防委員会研究報告、1994
5. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成 7 年度性病予防委員会研究報告、1995
6. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成 8 年度性病予防委員会研究報告、1996
7. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成 9 年度性病予防委員会研究報告、1997
8. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 10 年度 STD 予防委員会研究報告、1998
9. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 11 年度 STD 予防委員会研究報告、1999
10. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 12 年度 STD 予防委員会研究報告、2000
11. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 13 年度 STD 予防委員会研究報告、2001
12. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 14 年度 STD 予防委員会研究報告、2002
13. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 15 年度 STD 予防委員会研究報告、2003
14. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 16 年度 STD 予防委員会研究報告、2004
15. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 17 年度 STD 予防委員会研究報告、2005
16. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 18 年度 STD 予防委員会研究報告、2006
17. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 19 年度 STD 予防委員会研究報告、2007

18. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 20 年度 STD 予防委員会研究報告、2008
19. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 21 年度 STD 予防委員会研究報告、2009
20. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 22 年度 STD 予防委員会研究報告、2010
21. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 23 年度 STI 予防委員会研究報告、2011
22. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 24 年度 STI 予防委員会研究報告、2012
23. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 25 年度 STI 予防委員会研究報告、2013
24. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 26 年度 STI 予防委員会研究報告、2014
25. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 27 年度 STI 予防委員会研究報告、2015
26. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 28 年度 STI 予防委員会研究報告、2016
27. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 29 年度 STI 予防委員会研究報告、2017
28. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 30 年度 STI 予防委員会研究報告、2018
29. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：令和元年度 STI 予防委員会研究報告、2019
30. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：令和 2 年度 STI 予防委員会研究報告、2020
31. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：令和 3 年度 STI 予防委員会研究報告、2021
32. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：令和 4 年度 STI 予防委員会研究報告、2022
33. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：令和 5 年度 STI 予防委員会研究報告、2023
34. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：令和 6 年度 STI 予防委員会研究報告、2024

表1(病名別、性別、年齢別)

(令和7年度)(単位:例)

病名コード	病名	性別	合計	15	16	17	18	19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-	不明
1	梅毒(初期)	男	13						1		1	3	1		3	1		3
1	梅毒(初期)	女	17	1		1			7	4	3		1					
2	梅毒(後期潜伏)	女	1		1													
4	性器ヘルペス(初発)	男	29				1	1	8	6	3	1	1	4	2			2
4	性器ヘルペス(初発)	女	104	1		2	1	3	16	11	13	6	14	9	11	10		7
5	性器ヘルペス(再発)	男	8						1		1	2		1		2		1
5	性器ヘルペス(再発)	女	75						5	12	2	11	6	12	12	10	1	4
6	尿道炎(クラミジア)	男	151		2	3	5	7	42	26	27	14	10	3	7	4	1	
6	尿道炎(クラミジア)	女	3	1				1	1									
7	尿道炎(淋菌)	男	66				2	4	13	10	10	8	8	3	4	3		1
8	尿道炎(一般細菌)	男	10						4				2	1	2			1
8	尿道炎(一般細菌)	女	2								2							
10	尿道炎(その他)	男	38					1	6	10	3	4	2	8	1	1		2
10	尿道炎(その他)	女	1										1					
11	子宮頸管炎(クラミジア)	女	202		1	6	9	14	79	46	21	8	8	6	4			
12	子宮頸管炎(淋菌)	女	34		1	4	1	3	10	7	1	1	1	1	3			1
13	子宮頸管炎(一般細菌)	女	30					2	4	8	4	7	5					
14	子宮頸管炎(その他)	女	88		1	1	2	3	23	16	11	6	7	13	4		1	
15	トリコモナス膣炎	女	41		2	2	1	1	8	6	2	6	4	4	4	1		
16	陰毛しらみ症	男	1								1							
17	尖圭コンジローマ	男	30						2	5	5	5	4	5	1	2		1
17	尖圭コンジローマ	女	23					1	7	4	4	1	1	4				1
18	咽頭炎(淋菌)	男	1													1		
18	咽頭炎(淋菌)	女	1								1							
19	咽頭炎(クラミジア)	女	7						4	2	1							
20	その他	男	4				1		1	1	1							
	合計		980	3	8	19	23	41	242	174	117	83	76	74	58	35	3	24

表2 STIの感染源

(令和7年度)(単位:例)

感染源	小 計	男	女
不明	351	80	271
友人(1人)	318	110	208
友人(複数)	52	10	42
配偶者	99	6	93
風俗	114	103	11
その他	46	42	4
合計	980	351	629

表3 STIの感染場所(感染源:風俗)

(令和7年度)(単位:例)

感染場所	小 計	男	女
横須賀市	0	0	0
横浜市	49	46	3
川崎市	13	8	5
相模原市	0	0	0
鎌倉市	0	0	0
逗子市	0	0	0
三浦市	0	0	0
葉山町	0	0	0
その他県内	0	0	0
県外	20	20	0
国外	6	6	0
不明	26	23	3
合計	114	103	11

表4 淋菌及びクラミジア感染症の推移

(単位:例)

年 度	淋 菌		クラミジア		計
	男	女	男	女	
平成15年度	114	12	135	180	441
平成16年度	121	22	152	192	487
平成17年度	103	13	123	181	420
平成18年度	110	17	133	167	427
平成19年度	79	19	123	151	372
平成20年度	71	8	98	161	338
平成21年度	47	11	108	180	346
平成22年度	61	15	103	180	359
平成23年度	84	22	118	172	396
平成25年度	109	33	149	196	436
平成26年度	111	24	152	188	475
平成27年度	70	18	120	161	369
平成28年度	68	15	103	171	357
平成29年度	94	29	113	239	475
平成30年度	86	34	164	239	523
令和元年度	56	33	154	284	527
令和2年度	75	42	128	266	511
令和3年度	83	40	151	271	545
令和4年度	74	30	155	308	567
令和5年度	101	42	181	292	616
令和6年度	82	35	163	288	568
令和7年度	67	35	151	212	465

図1 STIの届け出総数の年次推移
令和7年度 980例

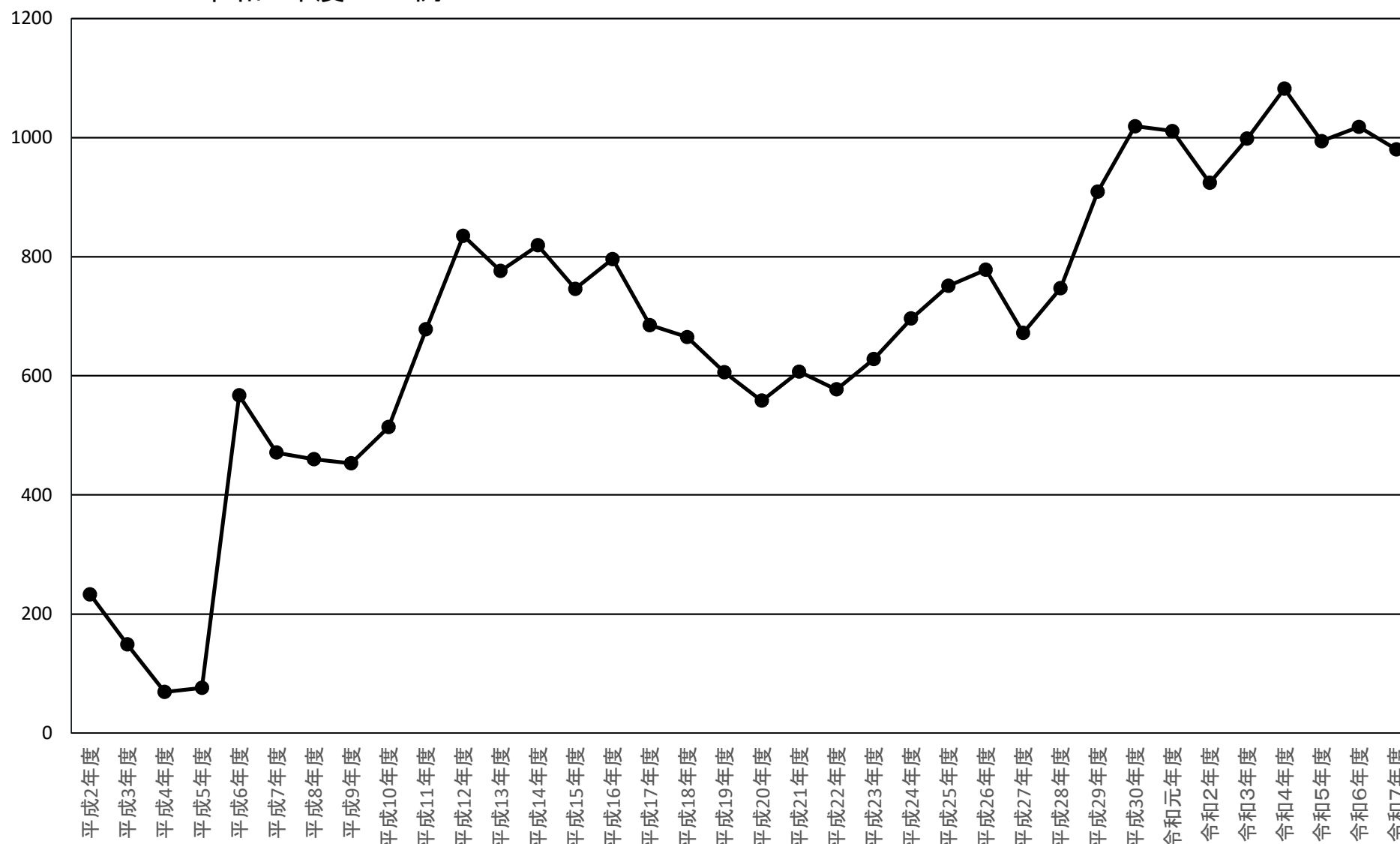


図2 47年間の梅毒・淋病報告数年度推移 令和7年度 梅毒31例、淋病102例

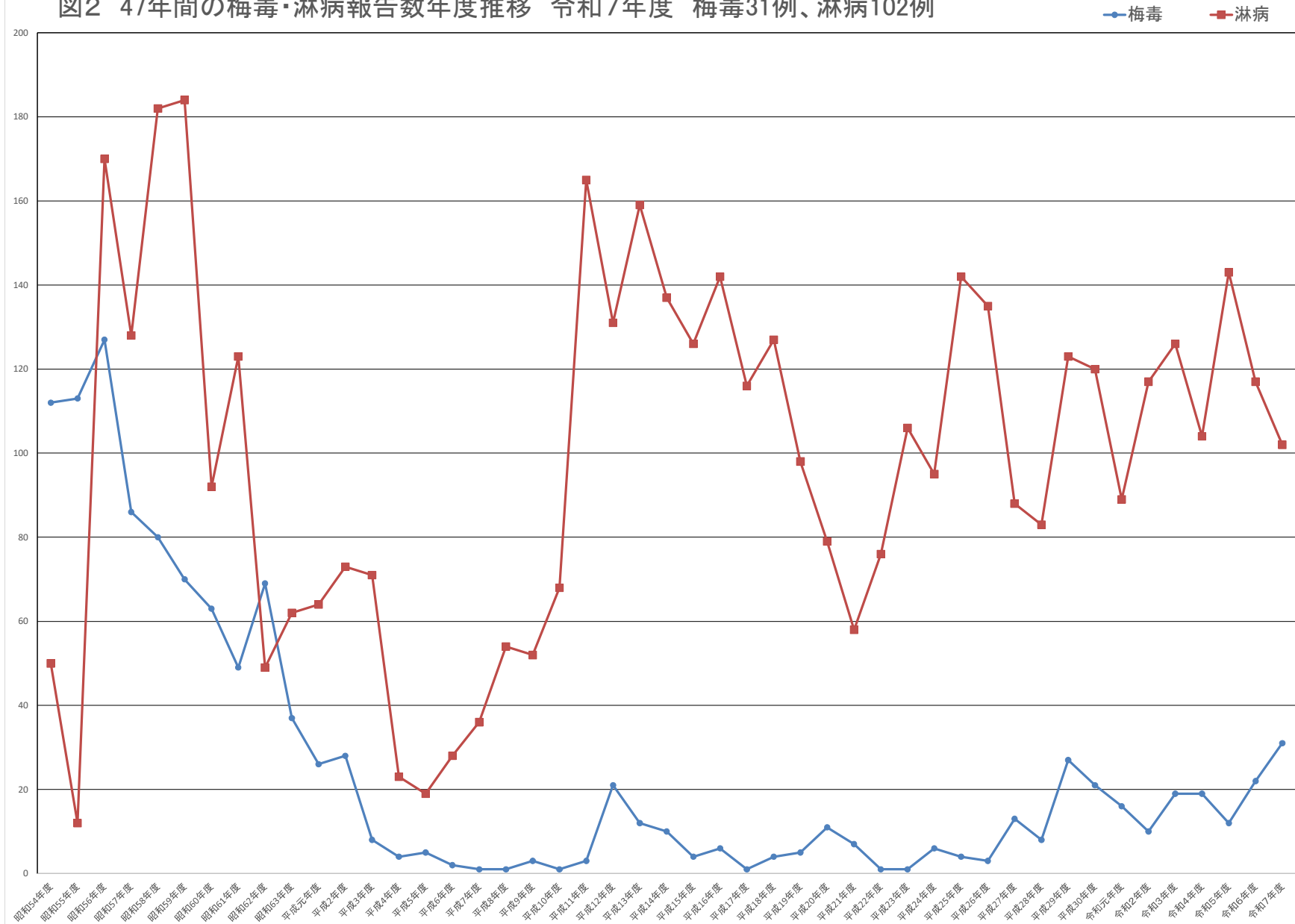


図3 39年間の尿道炎報告数年度推移
令和7年度 非淋菌性尿道炎

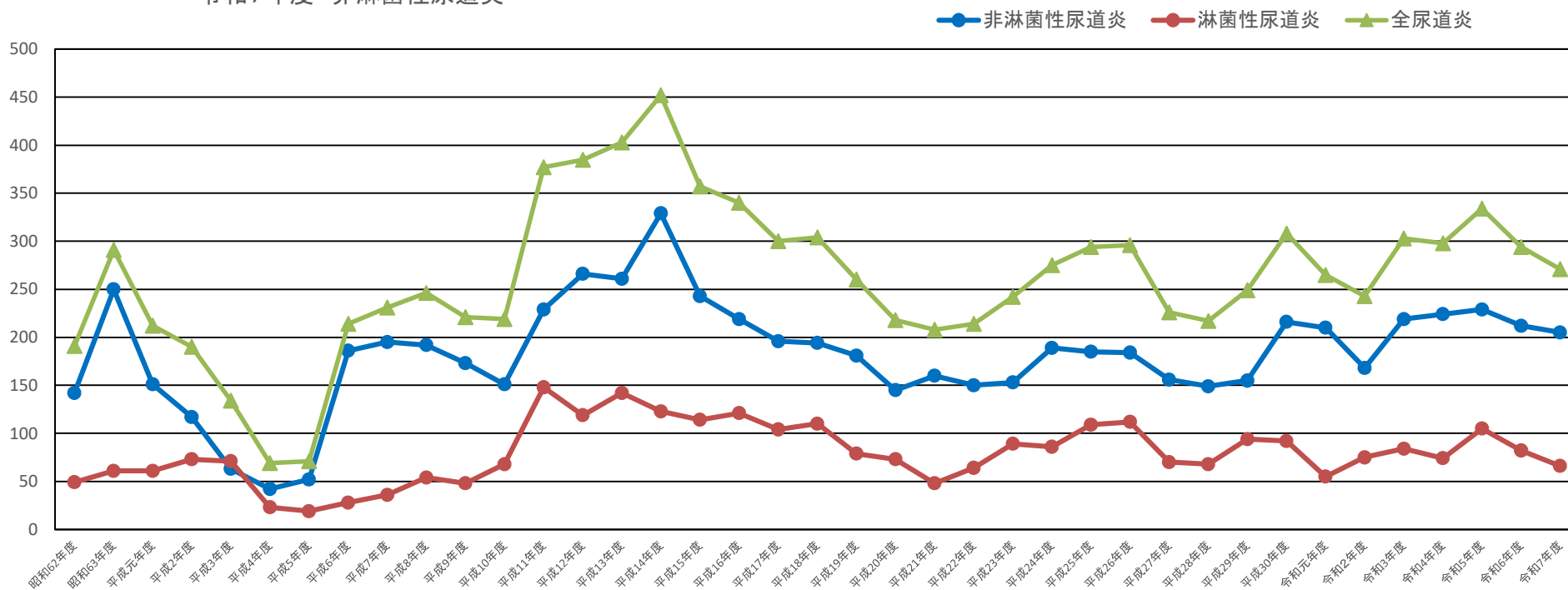


図4 淋菌性尿道炎と子宮頸管炎の年度推移

令和7年度 淋菌性尿道炎66例、淋菌性子宮頸管炎34例

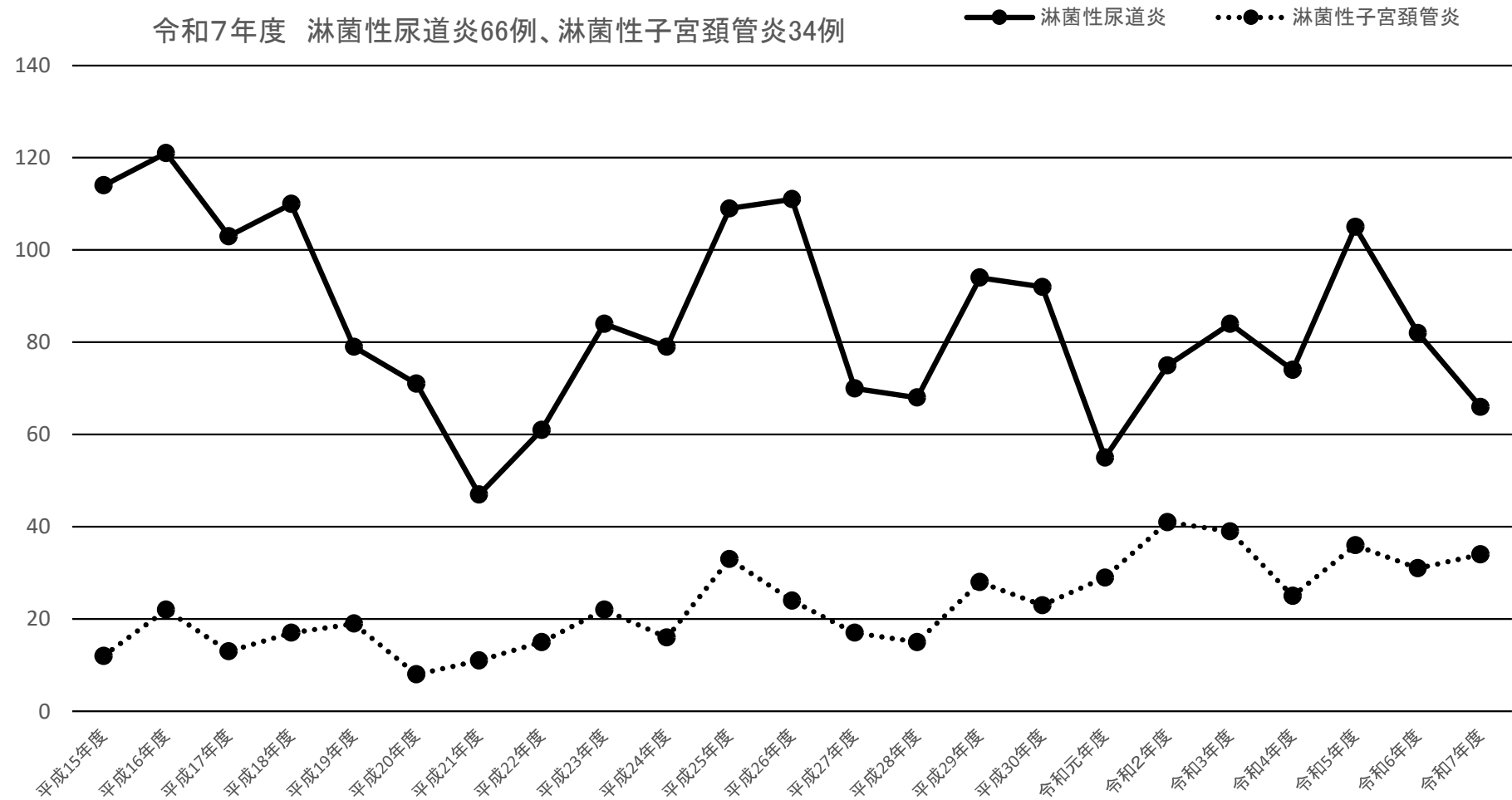


図5 クラミジア性尿道炎と子宮頸管炎の年度推移
令和7年度 クラミジア性尿道炎154例、クラミジア性子宮頸管炎202例

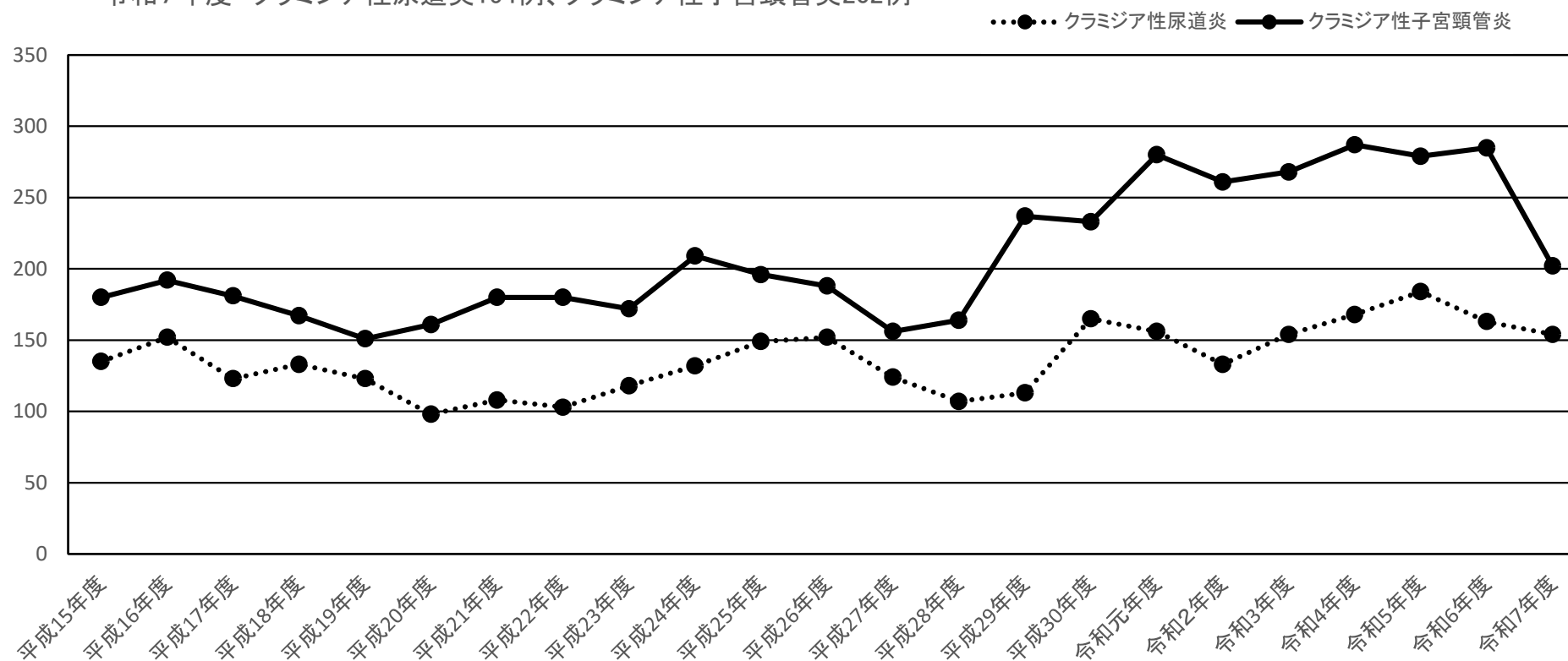


図6 性器ヘルペス及び尖圭コンジローマの年度推移

令和7年度 性器ヘルペス216例、尖圭コンジローマ53例

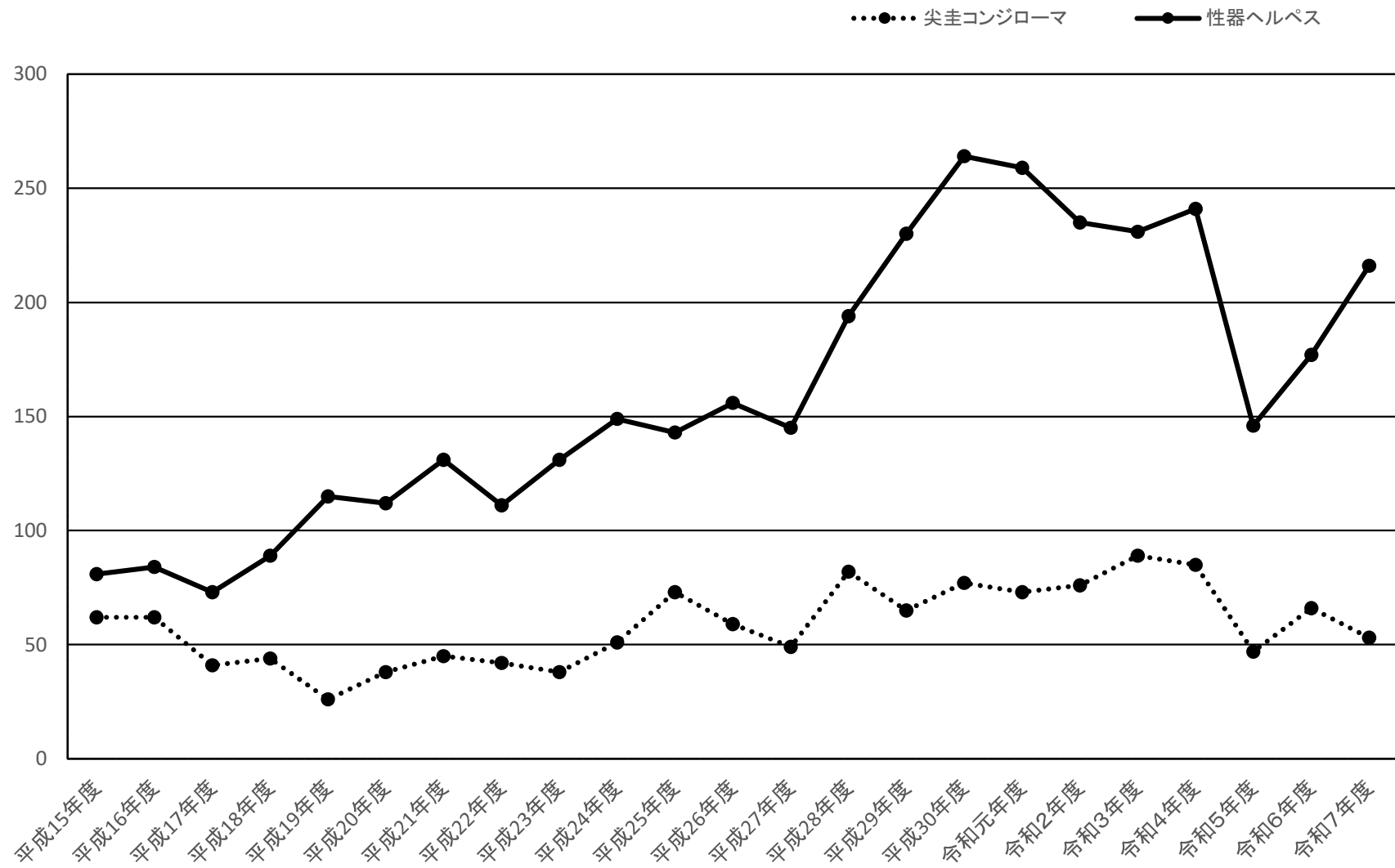
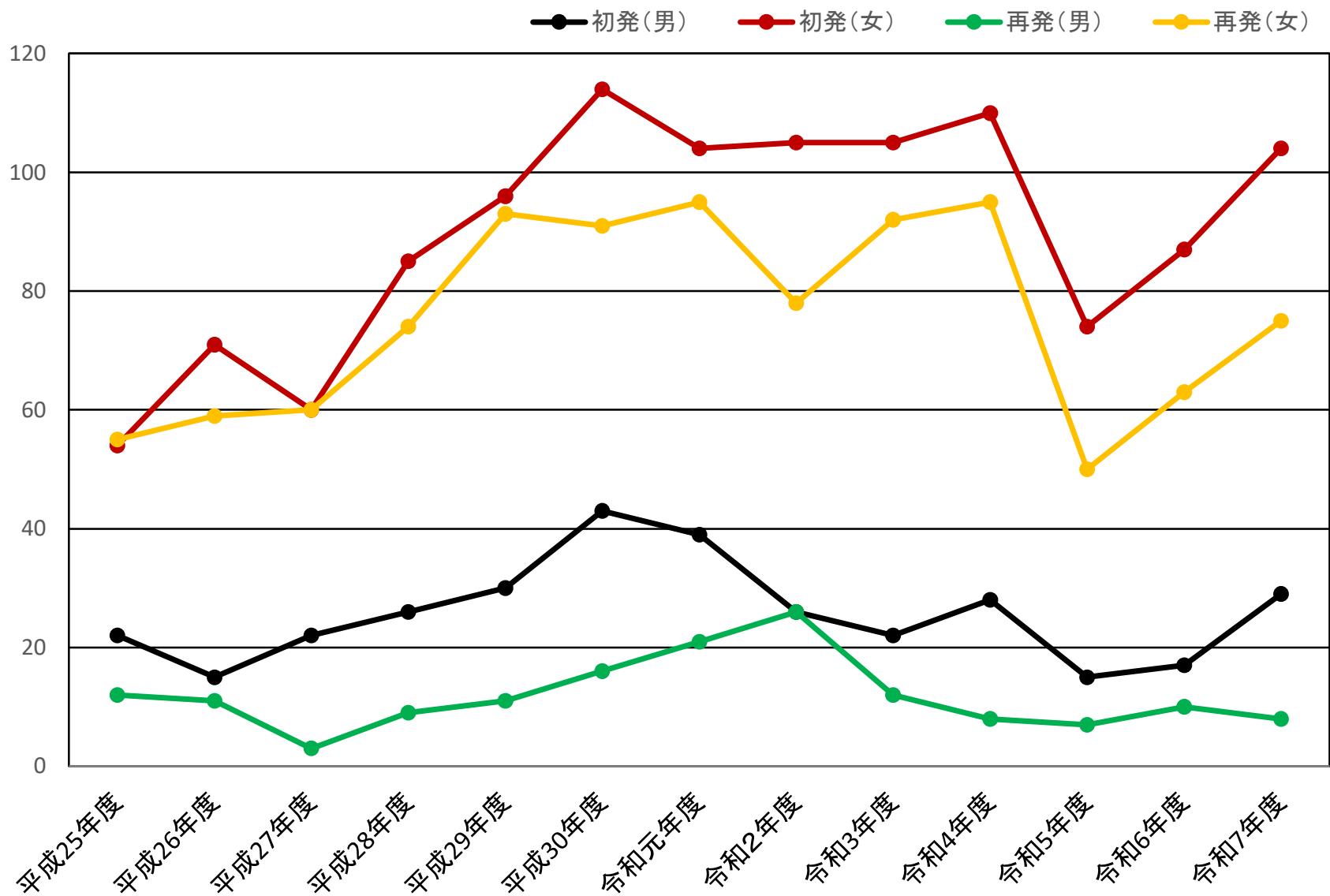


図7 性器ヘルペスの年度推移(男女別、初再発別)

令和7年度 初発(男)29例、初発(女)104例、再発(男)8例、再発(女)75例



・ S T I の届け出にご協力下さいました各施設の方々に、深く感謝いたします。

＜令和 7 年度 協力医療機関＞

【泌尿器科】

久里浜泌尿器科クリニック、里見腎泌尿器科、ふくおか泌尿器科クリニック、古畑泌尿器科クリニック

【産科・婦人科・産婦人科】

今井ウィメンズクリニック、内出医院、うみかぜレディースクリニック、追浜駅前ようこレディースクリニック、国立クリニック、くりはま優レディースクリニック、高レディースクリニック、後藤産婦人科医院、小松原レディースクリニック、つのだレディースクリニック、横須賀マタニティクリニック

【皮膚科】

いまざわ皮フ科、北久里浜皮フ科クリニック、久里浜駅前皮フ科、コスモス皮膚科、こもればい皮膚科、さくら皮膚科、湘南野比すぎやま皮ふ科、すずらん皮膚科クリニック、中村皮膚科、みやざわ皮膚科、安田内科・皮ふ科

【その他医院】

青山医院、いまにしクリニック、小磯診療所、齋藤医院、湘南グリーンクリニック

【総合病院】

衣笠病院、自衛隊横須賀病院、湘南病院、よこすか浦賀病院、横須賀共済病院、横須賀市立総合医療センター、横須賀市立市民病院